

ガタガタ通信

MIZUBE NI ASOBU KAI

No. 7

2001・夏の号

発行
水辺に遊ぶ会

大分県中津市中央町2-8-35
(足利方) 0979-23-5320

この夏イチバ、アヤシイ調査隊
中津干潟に行く!!



小さなタマゴを産んだのは?
七月のある暑い日、中津干潟の砂の中から直径三ミリほどのタマゴのかたまりが見つかった! 見者は中津干潟でタマゴを探して発苦節? 三年のT氏。タマゴの主は、そう、中津干潟のシンボル、カブトガニだ。干潟で大きくなつたカブトガニは海に出て大人になる。そして、産卵のために再び浜に戻つてくるんだ。卵と幼生(子ども)と生体が確認され、中津は正真正銘のカブトガニがすんでいるってことは、その海が豊かな証拠。魚や貝やことなんだ。

でも、困つた問題もある。カブトガニは長いシップボーカムみたいで漁師さんの網をグジヤグジやんか。何かいいアイデアがあつたら、ぜひガタガタ通信編集部まで。



小さなハートの形をした
「まごころ」の正体は...?
「まごころ」が発見されたのは、「まごころ」が見つけた体長四センチほどのアカブトガニだ。干潟で大きくなつたカブトガニは海に出て大人になる。そして、産卵のために再び浜に戻つてくるんだ。卵と幼生(子ども)と生体が確認され、中津は正真正銘のカブトガニがすんでいるってことは、その海が豊かな証拠。魚や貝やことなんだ。

でも、困つた問題もある。カブトガニは長いシップボーカムみたいで漁師さんの網をグジヤグジやんか。何かいいアイデアがあつたら、ぜひガタガタ通信編集部まで。

■水辺に遊ぶ会の活動報告

(2001.4.11~2001.7.30)

- 2001.4.17~22 想い出の海の写真展
- 2001.4.22 干潟観察会
- 2001.4.27 中津干潟学習会
- 2001.5.6 干潟調査準備作業
中津市主催干潟観察会協力
- 2001.5.11 干潟調査準備作業
- 2001.6.3 大新田ビーチクリーン
- 2001.6.7 干潟調査準備作業
- 2001.6.8~11 第1回干潟調査
- 2001.6.8 大平村西友枝小学校観察会
- 2001.6.16 カブトガニ放流
- 2001.6.22 ダイオキシン松葉調査学習会
参加(グリーンコープ主催)
- 2001.6.22 干潟調査準備作業
- 2001.6.23~24 第2回干潟調査
- 2001.7.1 「センス・オブ・ワンダー」
自主上映会
- 2001.7.7 第3回干潟調査
- 2001.7.8 カブトガニ放流
- 2001.7.13 小楠小学校総合学習会
西友枝小学校講演会参加
- 2001.7.18 中津小楠小学校干潟観察会
- 2001.7.19~22 第4回干潟調査
カブトガニ産卵調査
雑誌「ボートクラブ」取材
- 2001.7.24 日田市伏木小学校干潟観察会

「ガタガタ通信」次回は
2001年秋発行だよ!!

オタノシミニ

みなさんからのお便りや
イラストまってます!!

会員募集中!
年会費1000円
事務局まで
お問い合わせ下さい。

■わが家の庭は大草原。
水辺に遊ぶ会率いる「干潟調査隊」
を取つていると小さなバ
タやセミの抜け殻がいっぱい。
あー夏だな。(あ)
■日々記録を更新する、最
近所さんは新玄
関前に並ぶ長靴の数。
記録は8足。ご近所さん
さぞ不審だろうなー。
(う)

「まごころ」が見つけた体長四センチほどのアカブトガニの胸に、白と黒のハート形の物体を確認。現場は騒然となつた。なんちゃつて。アナジャコが泥の海を前進している時。隊員たちが見つけた体長四センチほどのアカブトガニの胸に、白と黒のハート形の物体を確認。現場は騒然となつた。なんちゃつて。アナジャコ

活動 あ・れ・こ・れ

映画「センス・オブ・ワンダー」上映会へご協力ありがとうございました。

ひとりでも多くの人に自然に目を向けてもらいたい、子どもたちの未来に豊かな自然を遺したい…日々の活動から生まれた廢いをこめて企画したレイチエル・カーソン「センス・オブ・ワンダー」自主上映会が、7月1日無事終了いたしました。

3回の上映で延べ600名あまりの方々が、中津市内、大分県内はじめ、遠くは佐世保、下関などからご来場いただき、とてもうれしく思っております。私たちにとっては初めての経験で、配慮の足りない部分も多々あったとは思いますが、多くの方々のお力添えをいただき、また、新しい出会いにも恵まれ、実り多い活動となりました。

みなさまのご協力への感謝の気持ちをこめて、ここに御礼を申し上げます。
ありがとうございました。

この上映に当たり、ささやかですが利益が生じました。みなさまのご厚意をどう活用するか話し合った結果、「センス・オブ・ワンダー こども未来基金」としてのことで、中津の自然や子どもの未来を頑張って活動するグループが集い、年に一回、ともに行事を企画・実行することを目標に運用することとしました。今は小さな輪ですが、同じ思いをもつ人々の輪が、もっともっと大きく広がることを願います。

今後とも、あたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。

末筆ですが「ありんこクラブ」というステキな仲間と一緒に頑張ったことに、感謝しつつ、「ありんこクラブ」のこれからのお躍りにエールを送りたいと思います。

2001年7月



水辺に遊ぶ会 映画上映スタッフ一同

豊前理研芸術会
主催の観察会で
はじめて
キヌガサタケと
オニバスを見えた。

大の白 ときら

夏休み干潟観察会
今年もやるよ!!

8月4日㈯

午後1時~4時・東浜★詳細は同封のチラシを見てね。

干潟ボランティア

一緒に楽しく活動してくださる方、興味がある方、ぜひ、ぜひ、事務局へご連絡を。

ホームページものみてみてね!!

水辺に遊ぶ会はホームページを開設しています。
ご意見・ご感想など、みなさまの声をお待ちしています。
URL:<http://www.yukichi.ne.jp/~ashikaga/index.htm>
e-mail:ashikaga@po.yukichi.ne.jp

今月のお客さま



カブトガニの研究を40年にわたり
続けられてきた 岡山県笠岡市の
土屋圭示さん

★ご縁があってお話をうかがいました。土屋さんかつて原爆が投下された直後の広島に行き、灼熱地獄で苦しんでいる人々の救援活動をした兵隊さんでもありました。生きもの（人間を含むすべての生命体）の生と死を圧倒的なパワーで支配する現実に直面した時、まだ17歳だったそうです。

★中学校教師となった土屋さんは地元笠岡の埋め立てでカブトガニが危機にさらされていることを知ります。海を失ったカブトガニの姿に、水を求める広島の被爆者の姿を重ね、カブトガニの研究をする決意をされたとか。

★中学生と共にカブトガニ研究調査グループを作って発見したことは、土屋さんの胸に鮮やかに残っているようです。カブトガニのことを少しでも知りたいと畠の上で添い寝した失敗談、素直な疑問や思わず発見に心がときめいた様子などから、生きものを殺したり、傷つけたりする事に対して過去の体験が深く関わっているのだなあと

う印象を受けるとともに、決して独りよがりに埋没しないお人柄が伝わってきました。★退職後、笠岡市内のカブトガニ研究センターに9年、カブトガニ博物館7年に勤務され、現在は博物館のボランティアをされているとのこと。カブトガニは、まだまだ知られていない面が多いのですが、やさしくお話ししてください、一般のわたしたちにもこんなに楽しく知る機会がもつことができるんだなと実感しました。

★土屋さんのお話は「瀬戸内のカブトガニ（学習研究社：1975）」に詳しく載っています。また、小学校4年生用の国語教科書（光村図書）にも一部が掲載されています。



NOVELS

「人は月に生かされている」
志賀 勝著 中公文庫発行

潮が満ちたり引いたりを説明されても一向にピンとこないで相変わらず混迷している方に最適な内容。狼男やうさぎに留まず、月にかかる経験知とニュー・サイエンス的追求から展開される仮説が楽しめる。あわせて「月からのシグナル」(根本順吉著 筑摩書房)は子ども向きで月と天候、地震、身体、病気というテーマが把握できそう。

に鬚の生えた赤貝、つるつるのハマグリ、何というのか、二十七センチ以上ある透き通った様な薄い殻の貝で貝柱が美味しい。新鮮なアサリは毎日のように食べた。東京で指の爪ほどの小さな黒いシジミ貝が酸っぱい赤ミソの汁で出されるのにはまいつた。こんな貝じゃないと思わなくなつたのは、所帯を持つてパック詰めの貝にしかお目にかかるなくなつてからのことだ。

駅の売店などで中津土産として売つている姫貝は上品に箱の中に納まつて、べらぼうに値が高い。あの頃我が家の軒下にもぶら下つていたあのバカ貝、こつそりつまんで口に入れると半生の身が柔らかくて甘い。火鉢でそつと炙ると貝の赤い舌が一寸だけ白っぽくなる。そこで炙るのを止める。まつすぐに伸びていた貝が縮こまつてしまつたら焼き過ぎだ。暖かみのあるうちに、フニヤツとした貝を歯と手で引き千切るようにして食べる。すると、ほのかに浜の香りがした。

海に近い農村に住んでいたお陰で、実際に米に不自由するようになつたのは、むしろ戦後のことだつたようだ。母の話からしばらくして麦飯になり、戦争がひどくなつて芋や南瓜が多くなつたけれども、畑を耕したり「イランデエー」と売りにくる魚介類、小魚や貝のたぐいはよく食べたようだ。
ひんがい（姫貝）、マテ貝、殻思ふ。

「ごろた石の磯には時間を持れさせる力がある。弁当を何処で食べたのか思い出せないが、母に持たれた鉛筆か何か入つている物をされた。」
「ようやく探し出して昼過ぎに家に辿り着く。だが、脚の片方は裸足だ。濡れたズックの片割れが何処かごろた石の間に紛れてしまつたのだ。この前はなんじやたかしらん。とにかくハマに行くと、いや外に行くと何か失して帰る。
「トシちゃん、ズック何処でなくしたん?」「ハマ!」と言うわけで、すでに不登校がばれた。
「いつだつたか」「トシちゃん、もうご飯もお弁当も食べられなくなっているんよ」と母に真顔で言われてちよつと心配したのは山本五十六元帥が戦死した頃だつたと思う。弁当がなくなるのはとても心配だつた。だから、次の日の弁当にちやんと白いご飯が入つているのを見えて心からホッとした。

熱い熱い夏がやつてきた。うれしいことに、今年は中津市内はもちろん、山国川の上流のみんなと一緒に干潟遊びがてきて、水辺に遊ぶ会スタッフは大喜び。中津の海をスミからスミまでかじりたい！と思つてゐるガタガタ通信編集部も、市場やお魚屋さん、漁師さんのところまで、どこでも突撃取材に出かけて、中津の海情報を発信しようと張りきつてます。どこかで「干潟オバサン」を見かけたら、ぜひぜひ、声をかけてね。



2001年、海・干渴・浜…出逢いと発見の夏。
海で遊んでいる人、海で働いてる人、海を眺めている人…
みんなとってもいい顔してる。やっぱり、中津の海ってステキなところなんだ。

魚市場に行かれたこと、ありますか？普通はあんまり縁がないところで知らない人も多いでしょうね。この中津魚市場の一角にあるのがオススメスポット「うろこ食堂」。魚市場関係者が常連さんなので、ウマくて新鮮なネタでなければ商売にならないという点がセールスポイントのお店。地物の魚の煮つけや唐揚げ、焼き物が、小鉢や卵焼きと一緒に網戸棚においしそうに並んでいます。お好みを選んで別注文のご飯、みそ汁で計五百円程度。安くてお腹一杯マチガイなし。ちなみに店名の由来は、ウロコは人に付く（魚のウロコを包丁で削ぎ落とす時、はずみで袖口や前身にくつつきやすい）というところから、お客様に付いてもらつて喜ばれたいという先代の強い願いだからだとか。営業時間は朝四時半から午後二時まで。市場の関係者でなくともOKなので、お友達同士でこの穴場を体験してみてはいかが？



山国川をサイクリングで
下ってやってきてくれた
日田市伏木小学校の6年生

**WELCOME to
NAKATSU
-HIGATA**

幼少時代、白鬚神社の横に
お住まいだつた安倍俊夫さん
(63才・横浜市在住)のお便
りを前号に続き紹介します。

あたより紹介